

よじろそ白銀の北海道へ！

本部町親善交流団が来町

「友好の町」沖縄県本部町との間で平成3年から毎年行われている親善交流事業として、本部町から20名の交流団（小学5年生15名、随員5名）の皆さんが、2月2日から6日までの日程で本町を訪れ、町内児童生徒やホームステイ受入家族などと交流を深め、北海道の冬を満喫しました。

本町に到着した交流団は、役場を敬訪問した後、総合福祉センターで行われた歓迎会に出席されました。池部町長は、「桜が咲く沖縄から純白の北海道へようこそ、心より歓迎します。」と挨拶し、交流団の金城（きんぎょ）団長からは、「温かい歓迎に感激しています。両町の友好が一層深まるよう交流したい。」と述べました。

歓迎会では、下金山小学校児童生徒の「YOSA KOONソーラン踊り」と沖縄と流派を同じくする「正伝空手道南風塾」の子ども達の空手が披露され、本部町の子も達からは「寒いけど、スキーなどをして友達をたくさん作りたい。」など一人ひとりから自己紹介をした後、「琉球舞踊」や「エイサー」が披露され、ホームステイ受入家族と楽しく食事をしながら交流を深めていました。

2日目は、幾寅小学校の児童と全校交流会を行い、互いの町の農業や自然環境の違いなどについての研究発表や校庭でゲームをして交流しました。また、午後からはどこころ野外学校で犬ぞり体験をした後、空知川スポーツリンクスで落合小学校と北落合小学校の児童と一緒にカーリングを体験。生まれて初めての氷上スポーツも楽しみました。

3日目は、東鹿越でワカサギ釣りを体験した後、南ふらのスキー場で金山小学校と金山中学校の児童生徒からスキーの指導を受け、時間を忘れて楽しく過ごしていました。

この日の夜は、それぞれのホームステイ先で、家庭料理と北海道の暮らし振りを体験しました。

4日目の朝、ホームステイ家族に見送られて本町を離れ、札幌に移動。ラーメン横丁で昼食をとった後、雪まつり会場、テレビ塔などを見学しました。

滞在中、交流団の皆さんは、沖縄では見ることのできない白銀の北海道を満喫し、楽しい思い出を胸に2600キロ離れた南国沖縄へと帰っていきました。



△ 歓迎会で披露された沖縄の伝統芸能「エイサー」



△ スピードにビックリ！犬ぞり体験



△ ワカサギを釣り上げて大喜び



△ ツルツルのリンクに悪戦苦闘したカーリング



△ 楽しみにしていたスキー



△ 札幌雪まつり会場を見学